

立命館大学大学院 生命科学研究科

Ritsumeikan University Graduate School of Life Sciences

Applied Chemistry Course
Biotechnology Course
Bioinformatics Course
Biomedical Sciences Course

4つの学問の 融合と連携で広がる 無限の可能性

ライフサイエンス分野を探究する

4学科を融合させた学部での学びと

大学院での最先端の研究を通して、

エネルギー、環境、食料、医療、健康分野といった

幅広い分野への応用と貢献を可能にする

人材を育成します。

現代社会は、地球規模において、かつ、様々な分野において解決しなければならない様々な課題に直面しています。そのなかでも資源・エネルギー問題、環境問題、食糧問題ならびに医療問題は、世界の四大問題とも言える課題ではないでしょうか。

これらの課題を解決するためには、工学、理学、農学、医学、薬学などの基盤となる学問に加えて、これら互いの境界から、あるいは融合することで発展してきた生命科学がさらに発展し、その発展から生まれてくる研究成果を社会実装していく必要があります。

生命科学研究科の特色は、工学、理学、農学、医学、薬学を基盤とする、あるいは基盤として新たに発展した応用化学、生物工学、生命情報学、および生命医科学の4つの学問分野で構成されていることです。すなわち、上述した四大問題に対応するうえで必要となる学問領域を概ねカバーしています。

生命科学研究科での学びと探究は、現代社会が抱える様々な課題にチャレンジし、より豊かな社会を創出したいと望んでいる学生の皆さんの期待に十分に答えることができると自負しています。

応用化学コース

材料・エネルギー・環境等の課題解決の糸口を原子・分子のレベルからアプローチ

活躍のフィールド

- 化学工業関連
- 機能材料メーカー
- 衣料品
- 食品
- 電気、機械

生命医科学コース

多種多様な生命現象を解明し、予防医学・再生医学の発展を目指す

活躍のフィールド

- 医療機関
- 医療機器
- 医薬品
- 化粧品
- 食品

生命情報学コース

生命科学と情報科学の融合から生命活動の仕組みを解明する

活躍のフィールド

- 衣料品
- IT関連
- 医療機器
- 食品
- エレクトロニクス関連

博士課程
後期課程
DOCTOR

生物工学コース

食料、資源・エネルギー、環境等の諸課題の解決に有用な機能を生物から学ぶ

活躍のフィールド

- 化学工業関連
- 環境関連
- 化粧品
- 食品
- 衣料品

博士課程
前期課程
MASTER

P6

P7

P8

カリキュラム

修了要件

前期課程

科目区分		必要単位数		合計
共通科目		4単位以上		30単位以上
専門科目	コア科目	6単位以上	10単位以上	
	選択科目			
研究科目		16単位		

後期課程

科目区分	必要単位数	合計
専門科目	—	8単位以上
研究科目	8単位以上	

科目

〔前期課程〕		
共通科目（全コース共通）		科学技術表現 産業・医療管理特論 知的所有権概論 技術経営特論 生命科学研究概論 特殊講義（共通） 技術者実践英語特論 ※自由科目 国内実習 海外実習
専門科目	コア科目	応用化学コース 物性・反応化学特論 構造物理化学特論 無機構造物性化学特論 無機機能材料化学特論 応用生物化学特論 X線分析化学特論 有機分子化学特論 有機機能材料化学特論 反応物理化学特論 有機反応・構造化学特論
		生物工学コース 環境バイオテクノロジー特論 エネルギー・資源バイオテクノロジー特論 食料バイオテクノロジー特論 生物工学研究特論
		生命情報学コース ゲノム情報学特論 分子構造・機能学特論 数理生体機能学特論 分子設計学特論 生体分子ネットワーク特論 植物生理学特論
		生命医科学コース 基礎生命医科学特論 応用生命医科学特論 先端生命医科学特論 生命医科学研究法概論
	選択科目	応用化学コース エネルギー・資源バイオテクノロジー特論 生物工学研究特論
		生物工学コース 基礎生命医科学特論 先端生命医科学特論 生命医科学研究法概論 分子構造・機能学特論 生体分子ネットワーク特論 植物生理学特論 応用生物化学特論 有機反応・構造化学特論
		生命情報学コース 基礎生命医科学特論 先端生命医科学特論 応用生命医科学特論 エネルギー・資源バイオテクノロジー特論 環境バイオテクノロジー特論 食料バイオテクノロジー特論
		生命医科学コース 環境バイオテクノロジー特論 エネルギー・資源バイオテクノロジー特論 食料バイオテクノロジー特論 ゲノム情報学特論 分子構造・機能学特論 応用生物化学特論 有機分子化学特論 有機機能材料化学特論
研究科目		生命科学特殊研究1～4

〔後期課程〕			
専門科目	選択科目	国内実習 海外実習	
	自由科目	英語研究発表演習※ 費用対効果評価特論Ⅰ 費用対効果評価演習Ⅰ 費用対効果評価特論Ⅱ 費用対効果評価演習Ⅱ	
研究科目		生命科学特別研究 1～6	

「医薬品、医療機器及び再生医療等製品の費用対効果評価のための人材育成事業」にて、本大学および京都大学、北海道大学3大学での事業受託を受け、後期課程を対象としたHTA(医療技術評価:Health Technology Assessment)教育プログラムとして2025年度より新規開講。
※「英語研究発表演習」は該当しません

研究科独自海外留学プログラム

生命科学研究科では、「専門領域における日本語または英語による論理的文章力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を有する」人材の育成に向けて、院生向けの単位授与を伴う海外留学プログラムを複数実施しています。英語力を高めたい方、将来グローバルな場での活躍を目指す方の参加をお待ちしています。



ストラスブール大学（ECPM）交換留学

ヨーロッパトップレベルのフランス・ストラスブール大学化学・ポリマー材料科学ヨーロッパスクール（ECPM）で、半年または1年間、現地の大学院生と英語で専門授業を受講。最先端のサイエンス・テクノロジーに触れ、アカデミックスキルを習得できる貴重なプログラムです。

- プログラムの特徴
- ECPMの学費は無料で、正規開講科目を現地学生と共に履修
 - キャンパス近くの学生寮で現地学生と寮生活を行うことで、学外でも異文化に触れ、語学力や異文化適応力を自然に身につけられる。
 - 最先端の学問領域に触れ、主体的に課題に取り組むことで、挑戦心や自主性を自然と培う。
 - 実験やディスカッションを重ねる中で、研究に必要な探究心・分析力・発信力を鍛え、将来の研究者としての基盤を築くことができる。



Global-ready Graduate Program（GRGP）

留学前に双方向型の英語授業でプレゼンテーションやライティングを集中的に鍛え、夏休みには希望する海外の大学や研究機関で短期留学を行います。トップレベルの研究環境に挑戦したい院生向けの実践型プログラムです。
〔留学先例〕オックスフォード大学、イリノイカレッジ、トロント大学 他

- プログラムの特徴
- 双方向型の事前授業を通して英語力を集中的に鍛える。特に、プレゼンテーションスキル、ライティングスキルが向上
 - 海外の大学や研究所等で武者修行を通して異文化適応力が向上。同時に、多少の困難にもめげずに乗り越える力を身につけられる
 - 留学後、その成果をさらに発展させるためのフォローアッププログラムや各種シンポジウムを開催。多様な背景を持つ仲間と積極的な議論することで、新たな知見が獲得できる
 - 帰国後単位授与あり

生命科学研究科グローバルステージ奨学金の新設

生命科学研究科グローバルステージ奨学金は、国際的なステージで活躍する人材を育成することを目的として2024 年度より新設された奨学金です。当奨学金は3種あり、海外留学や国際学会発表など国際的な活動にかかる費用を補助します。

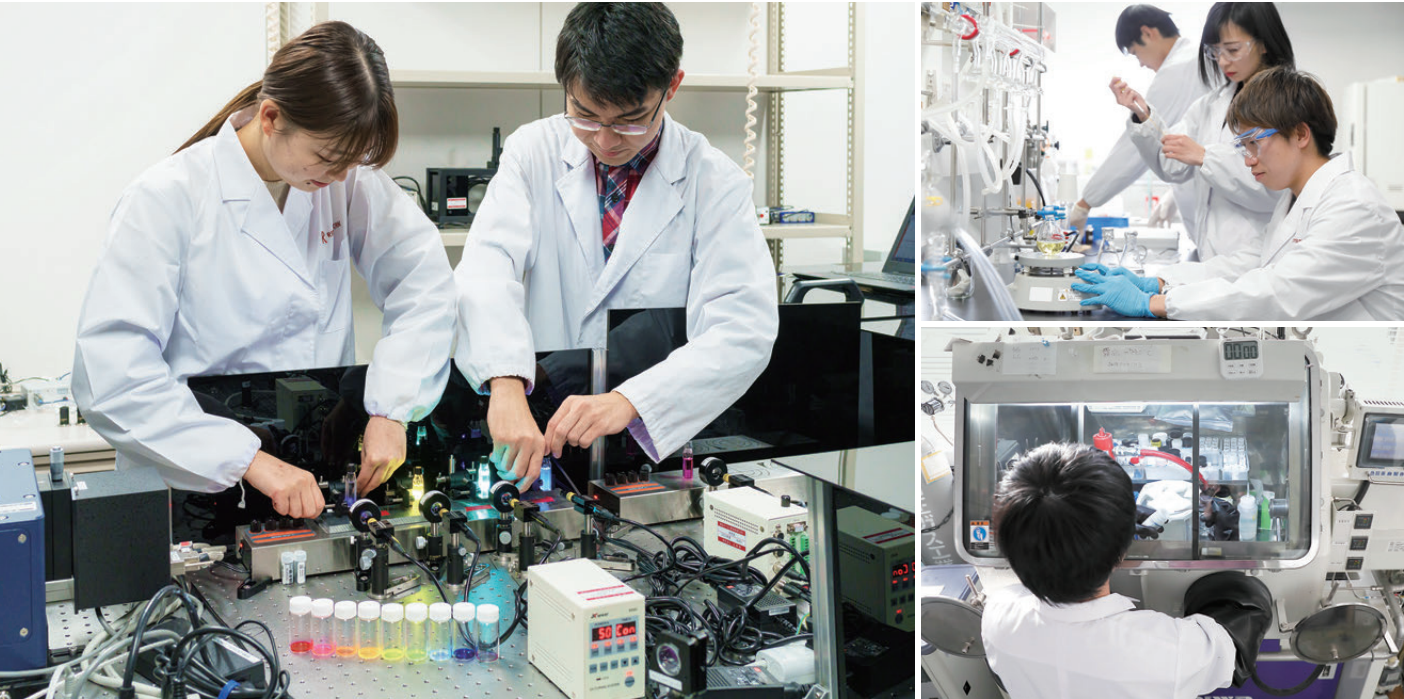
種類	奨学金名称	支給額
スキーム A	プログラム奨学金	1～20万円（プログラムによって異なる）
スキーム B	〈海外現地参加〉国際学会奨学金	3～6万円（地域によって異なる）
スキーム C	〈国内参加〉国際学会奨学金	2万円

スキーム A「プログラム奨学金」は、以下のプログラム参加者に対し、渡航に関わる一部費用を補助する制度です。奨学金額等詳細は、各プログラム参加者募集時にお知らせします。

- マレーシアプトラ大学ライフサイエンスプログラム
- インド工科大学ハイデラバード校 PBL プログラム
- Global-ready Graduate Program
- ストラスブール大学交換留学プログラム

応用化学コース

Applied Chemistry Course



材料・エネルギー・環境等の課題解決の糸口を原子・分子のレベルからアプローチ

応用化学コースでは、物理化学・無機化学・分析化学・有機化学・生化学などを基盤として、物質の機能を解明するための、また、新物質の創製を実践するための化学的理論と技術を幅広く学びます。材料化学からエネルギー、生体関連物質まで、幅広い分野で研究を展開します。

[研究室]		
研究室名	担当教員	研究テーマ
無機触媒化学研究室	福田 康宏	金属触媒の機能の原理を理解し、次世代の材料開発へ
無機電気化学研究室	折笠 有基	固体電気化学に立脚したエネルギー変換デバイスのブレークスルー
生体物理化学研究室	加藤 稔	生体分子の構造形成機構に関する分光研究
錯体機能化学研究室	桑田 繁樹	新しい金属錯体を設計し、窒素、二酸化炭素などの不活性小分子の変換に応用する
生命無機反応化学研究室	越山 友美	生体高分子を利用した化学反応場の設計・構築と機構解明
光機能物理化学研究室	小林 洋一	物理化学を基盤として、光エネルギーを最大限活用したこれまでにない機能性材料を創出する
生命有機化学研究室	五月女 宜裕	分子触媒・酵素を用いた新反応を開発し、独自の生命制御分子をつくる
生物機能分析化学研究室	高木 一好	酵素が触媒として作用する、生物における酸化還元（レドックス）反応について理解を深める
高分子材料化学研究室	堤 治	ナノテクノロジーを駆使した「分子デザイン」と「分子集合状態制御」による未来材料の創製
レーザー光化学研究室	長澤 裕	超高速分光による光化学反応および光合成初期過程の分子ダイナミクスの解明
有機材料化学研究室	花崎 知則	新規な機能性有機材料を設計・合成しその応用の可能性を探る
超分子創製化学研究室	前田 大光	未踏分子の合成・集合化により電子・光機能材料を自在に創製する

PICK UP

超高速分光による光化学反応および光合成初期過程の分子ダイナミクスの解明

[レーザー光化学研究室] 担当教員：長澤 裕

分子内の原子配置が変化することによって化学反応が起こります。当研究室では超短パルスレーザーを使って光化学反応がどのように起こるか、ピコ秒やフェムト秒という時間スケールで観察しています。植物等が行っている光合成も光化学反応のひとつであり、その機構解明は新しい光エネルギー変換法の開発に繋がる可能性があります。



生物工学コース

Biotechnology Course



食料、資源・エネルギー、環境等の諸課題の解決に有用な機能を生物から学ぶ

生物工学コースでは、生化学、分子生物学、微生物学などを基盤とし、環境、食料、資源、エネルギーに関連する生物工学理論や技術を幅広く学びます。また、生物機能、生態系の構造・機能の解析や生物由来生理活性物質の解明などの基礎研究、ならびに、これらを基盤とした環境、食料、資源、エネルギーに関する応用研究を展開します。

[研究室]		
研究室名	担当教員	研究テーマ
バイオエネルギー研究室	石水 毅	植物糖質関連酵素の解析と糖質化合物の機能解析
植物分子生物学研究室	笠原 賢洋	植物・微生物の環境応答の分子メカニズムの解明
食料バイオテクノロジー研究室	竹田 篤史	ゲノム編集を利用したウイルス・ウィロイド抵抗性植物の分子育種
生体分子化学1研究室	武田 陽一	糖質関連分子プローブの創製による糖鎖機能の解明
微生物ゲノム動態研究室	竹俣 直道	アーキアゲノムの組織化原理とその機能の解明
構造生命科学研究室	松村 浩由	自然環境の改善と創薬に貢献する構造生命科学
応用分子微生物学研究室	三原 久明	微生物の代謝経路の解明
酵素工学研究室	若山 守	酵素および発酵を利用した有用物質の生産法の開発

PICK UP

アーキアゲノムの組織化原理とその機能の解明

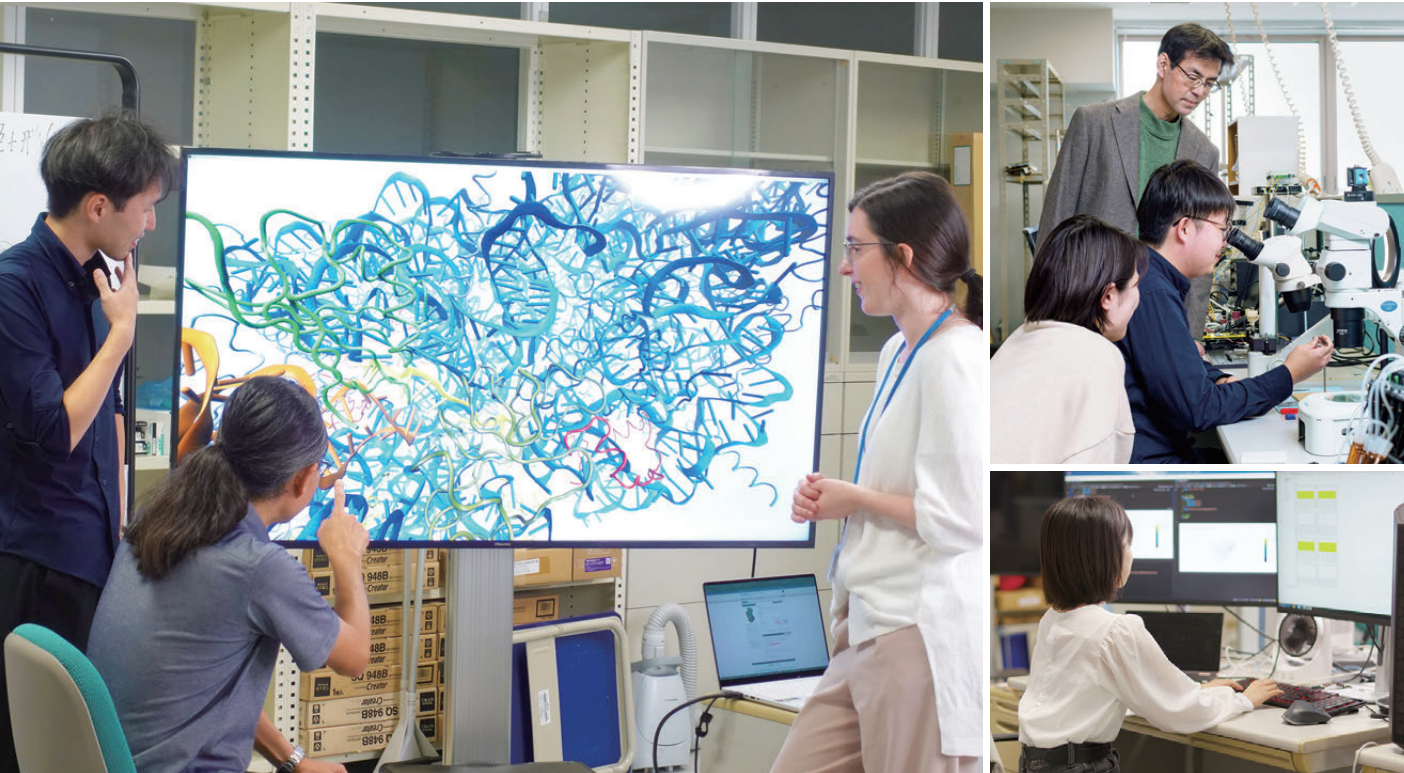
[微生物ゲノム動態研究室] 担当教員：竹俣 直道

ゲノムDNAは細胞内で高度に組織化された三次元構造を形成しています。私たちは、真核生物の起源になったとされる微生物群「アーキア」において、ゲノムの組織化機構と機能がどう結びついているかを研究しています。このような取り組みを通じて、アーキアゲノムの進化的理解と産業応用を進めることを目指します。



生命情報学コース

Bioinformatics Course



生命科学と情報科学の融合から生命活動の仕組みを解明する

生命情報学コースでは、コンピューター（情報科学）を利用して、生命活動の仕組みを解明することを目的として、その基礎となる生命科学、情報科学、生物機能の解析技術に関する専門知識を幅広く学びます。その上で、遺伝情報、タンパク分子構造－機能相関、生体機能などの数理解析に関する研究を行い、生命科学、医学、薬学、食品、情報技術に関連した研究を展開します。

[研究室]		
研究室名	担当教員	研究テーマ
組織機能解析学研究室	天野 晃	詳細な細胞モデルに基づいて組織・臓器の機能を解明する
情報生物学研究室	伊藤 将弘	ゲノム情報から生命システムを理解する
脳回路情報学研究室	木津川 尚史	運動のリズムと脳のリズム：リズムから読み解く神経情報処理
計算構造生物学研究室	高橋 卓也	生体分子の構造と機能の関係を計算科学によって解明し、応用につなげる
生体分子ネットワーク研究室	寺内 一矩	光合成微生物を用いた環境適応の分子メカニズム解明
生物計算研究室	富樫 祐一	情報処理機械としての生物を数理モデルを用いて理解する
植物分子生理学研究室	深尾 陽一朗	植物の環境ストレス耐性に関わる分子機構の解明

PICK UP

計算機の中に細胞や臓器のデジタルコピーを作る

[組織機能解析学研究室] 担当教員：天野 晃

近年の生命科学分野の研究で細胞内分子の働きに関する情報は爆発的に増えていますが、これらの情報を医療に活かすためには、膨大な数の分子がどのように協調して細胞や臓器の機能を実現しているかを理解する必要があります。たくさんの分子を組み合わせた数理モデルを作ること、組織や臓器、ひいては個体がどのようにして動いているのかを理解することを目指しています。



生命医科学コース

Biomedical Sciences Course



多種多様な生命現象を解明し、予防医学・再生医学の発展を目指す

生命医科学コースでは、多岐に渡る基礎医学の先端領域とその融合領域を学び、未知の生命現象や様々な疾病の発症機構を解明します。更に、先端技術で開発された医薬品などの新規医療技術の適切な評価と社会への応用方法も学び、広く生命医科学研究を展開します。

[研究室]		
研究室名	担当教員	研究テーマ
幹細胞・再生医学研究室	川村 晃久	体細胞初期化および幹細胞分化の分子機構解明とその再生医学への応用
タンパク質修飾生物学研究室	白壁 恭子	タンパク質修飾が生命現象を生み出す仕組みと疾患への影響
疾患細胞免疫学研究室	立花 雅史	免疫応答を抑制する細胞をターゲットとした疾患治療法の開発
薬理学研究室	田中 秀和	脳の豊かな適応力と神経回路のリモデリング
プロテオミクス研究室	早野 俊哉	疾患プロテオミクス解析
病態生理代謝学研究室	向 英里	糖尿病の発症解明とその治療と予防に向けた研究
医療政策・管理学研究室	森脇 健介	医療技術の価値を評価し、政策上の意思決定を支援する

PICK UP

免疫応答を抑制する細胞をターゲットとした疾患治療法の開発

[疾患細胞免疫学研究室] 担当教員：立花 雅史

骨髄由来免疫抑制細胞 (Myeloid-derived suppressor cells; MDSC) は、生体の恒常性が崩れた際、すなわち、疾患が引き金となって出現する細胞です。恒常性を元の健康な状態に戻すには、MDSCの除去や機能阻害が有効であると考え、MDSCを標的とした新規疾患治療法の開発を目指し、その分化・増殖・機能の詳細なメカニズムの解明に取り組んでいます。



(STUDENT VOICE)

教えて先輩！



● 大学院へ進学した動機を教えてください。

▲ 学部時代から、将来は企業で技術系職種に就きたいと考えており、そのために必要な専門知識と研究経験を積むため大学院進学を決めていました。研究活動を通じて論理的思考力や問題解決能力を磨き、技術者として社会課題の解決に貢献できる実践的なスキルを身につけたいと考えたからです。

● 大学院ではどのようなことに取り組みましたか？

▲ 酸化マンガン材料の熱処理による酸素放出反応について、X線分析を用いた解析に取り組んでいます。この還元反応は反応環境中の酸素濃度によって進行挙動が大きく変化することが特徴です。放射光施設での測定により、酸素含有量と還元挙動の相関関係を定量的に解析し、酸化マンガンの化学状態変化を詳細に追跡しています。

● 大学院へ進学してよかったことはどんなことですか？

▲ 研究室のリーダー的な立場で後輩指導や研究室運営に携わり、ラボの共通目標に向けて取り組むチームとしての行動力が身につきました。また、学会発表などを通じて、研究成果を他者に分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力や論理的思考力が向上しました。これらの経験は就職活動においても大きな強みとなったと感じます。

● 大学院修了後、どのようなことに取り組んでいきたいですか？

▲ 大学院で学んできた知識・経験を活かし、変化し続ける社会の中で新たな革新を生み出す一員になりたいです。特に深刻化する環境問題に対して、技術者として具体的な解決策を提供していきたいと思っています。研究を通じて培った分析力や問題解決のスキルを最大限に活用し、持続可能な社会の実現に向けて積極的に貢献したいと考えています。

● 進学を希望される方にメッセージをお願いします。

▲ 大学院での研究活動は専門性を深めていく中で、困難に直面することもあります。ですが、仲間と切磋琢磨しながら研究に打ち込む経験は貴重な時間で、とても楽しいです。ぜひ、挑戦してください！

VOICE

01

応用化学コース

〔無機触媒化学研究室〕
進路：パナソニックエナジー株式会社



VOICE

02

生物工学コース

〔応用分子微生物学研究室〕
進路：立命館大学生命科学研究科
博士課程後期課程進学



教えて先輩！



● 大学院へ進学した動機を教えてください。

▲ 大学院へ進学した動機は、学部時代に学んだ専門分野への興味がより深まり、さらに高度な知識や技術を身につけたいと考えたからです。特に研究活動を通じて、自分の手で新しい知見を生み出すことにやりがいを感じ、より本格的に研究に取り組む環境に身を置きたいと思いました。

● 大学院ではどのようなことに取り組みましたか？

▲ 硫黄還元細菌が行う「硫黄呼吸」に関与する酵素の研究に取り組みました。大腸菌を用いて組換えタンパク質を発現・精製し、さまざまな基質を用いた酵素活性測定や部位特異的変異導入を行うことで、酵素の性質を解析しました。

● 大学院へ進学してよかったことはどんなことですか？

▲ 大学院へ進学してよかったことは、専門分野に関する知識や技術を深めることができた点です。学部の頃よりも自由度が高く、自分の興味に基づいて主体的に研究に取り組めるようになり、問題解決能力や論理的思考力が大きく養われたと感じています。また、学会発表や研究室内の議論を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力も向上しました。

● 大学院修了後、どのようなことに取り組んでいきたいですか？

▲ 博士課程修了後は、企業の研究開発部門で働きたいと考えています。博士課程で培った専門的な知識や課題解決能力を、実社会のニーズに直結する形で活かしていきたいと思ったからです。これまでの研究経験を土台に、社会に貢献していきたいと考えています。

● 進学を希望される方にメッセージをお願いします。

▲ 大学院への進学は、自分の興味のある分野をさらに深く掘り下げることができる貴重な機会です。自分で考え、試行錯誤しながら進める研究の過程は、とてもやりがいがあります。また、仲間や指導教員との関わりを通じて、自分の視野も広がります。興味や好奇心を大切に、一歩踏み出してみてください。

ある1日の
過ごし方



① 9:30～12:00 | 研究室セミナー

週に1度、研究の進捗を報告する研究会があります。発表での活発な質疑応答を通じて、新たな視点を得ることができ、研究をより深く発展させることができます。

③ 13:00～19:00 | SRセンターでの実験

学内の放射光施設（SRセンター）で測定を行っています。測定装置は予約制のため、測定日には1日中実験に取り組むこともあります。SRセンターでの測定を行わない日は、他の装置を用いた実験やデータ解析作業を進めています。

② 12:00～13:00 | 昼食・実験準備

セミナー終了後に、同期とお昼ご飯を買いに行きます。キッチンカーに行くことが多く、息抜きの時間です♪ 食後は、実験前の試料の準備・実験施設への移動などをします。

④ 19:00～20:00 | 結果解析・報告準備

ラボに戻り、実験中に終わらなかった測定データの解析と、先生への結果報告資料の準備を行います。すぐに先生と議論することで、円滑に研究を進めることができます。この後、ラボのメンバーと晩ご飯を食べて帰ることもあります。

ある1日の
過ごし方



② 11:00～12:00 | 昼食

昼食は、研究室のメンバーと一緒に学内に来ているキッチンカーや売店でお弁当を購入することが多いです。同期の仲間だけでなく、後輩たちとも気軽に会話を楽しみながら食事をしており、研究の合間のリフレッシュになっています。

⑤ 19:00～21:30 | ノート整理と翌日の実験計画

その日に行った実験操作や得られた結果を、できるだけ詳しく実験ノートに記録するようにしています。観察したことや気づいた点も忘れないように書き留めておくことで、後から振り返る際にも役立ちます。また、翌日に行う実験の内容を整理し、手順や使用する試薬の準備などもこの時間に確認しています。計画的に作業を進めることで、ミスの防止にもつながっています。

① 9:30～11:00 | セミナー

週に一度、学生全員で日頃の実験操作や使用機器の原理、注意点などについて学ぶ時間を設けています。研究活動には事故の危険性が伴うため、そうした事態を未然に防ぐべく基礎的な事項から確認しています。また、論文紹介とディスカッションを通じて、論文をより深く批判的に読む力を養うことも目的としています。

③ 12:00～18:00 | 実験

この時間帯は主に実験に取り組んでおり、タンパク質の精製や、分光光度計を用いた酵素活性の測定などを行っています。実験の合間には、関連する論文や文献に目を通し、自分の実験系に応用できそうな知見や手法がないかを探るように心がけています。

④ 18:00～19:00 | 夕食

夕食は、その日の研究室に残っているメンバーと一緒に、学食や学内のコンビニに行くことが多いです。

(STUDENT VOICE)

教えて先輩！



● 大学院へ進学した動機を教えてください。

▲ 高校生の頃から技術職に就きたいという思いがあり、大学入学当初から大学院進学を視野に入れていました。学部では授業や演習を通して基礎的な知識や技術を学びました。しかし、実際に技術者として活躍するには、問題に対してどのように取り組むか試行錯誤する能力が必要だと考え、より実践的な成長を図るために大学院進学を決意しました。

● 大学院ではどのようなことに取り組みましたか？

▲ 運動機能や認知機能に関与する大脳皮質―大脳基底核神経回路に着目し、行動制御の情報処理機構を明らかにすることを目指して、神経回路モデルの構築に取り組みました。神経回路による行動制御の理解を深めるため、実験結果や既存の数理モデルと自らのシミュレーション結果を比較・検証し、モデルの妥当性を評価しながら解析を進めています。

● 大学院へ進学してよかったことはどんなことですか？

▲ 大学院では、研究室という組織の中で多様な視点や意見に触れる機会が多くありました。異なる立場の人と協力する中で、自分の考えを的確に伝える力が鍛えられたと感じています。また、これらの経験を通じて、状況に応じて柔軟に物事を考える力も養われました。

● 大学院修了後、どのようなことに取り組んでいきたいですか？

▲ 大学院で論理的に課題を整理し、試行錯誤を重ねながら解決策を模索する経験を重ねました。今後は、ITエンジニアとしてその力を活かし、人や社会にとって価値のある仕組みやサービスを形にしていきたいと考えています。複雑な問題に向き合い、現実的な制約の中でも工夫し続けられる技術者を目指します。

● 進学を希望される方にメッセージをお願いします。

▲ 大学院では、興味のあることにじっくり向き合いながら、仲間と協力して試行錯誤する日々が続きます。大変なこともあります。自分で選んだ道に取り組む経験は、自信につながると感じました。迷っている方も、自分の興味や目標を信じて一歩踏み出してみてください。

VOICE

03

生命情報学コース

〔脳回路情報学研究室〕

進路：株式会社ニコンシステム



VOICE

04

生命医科学コース

〔医療政策・管理学研究室〕

進路：興和株式会社



ある1日の
過ごし方



② 11:00～12:00 | ミーティング

研究テーマごとのグループで教授を交えて進捗報告を行い、現状の課題や今後の方向性について議論します。様々な視点や意見に触れることで、自身の研究を多角的に見直すことができる重要な機会となっています。

④ 15:00～18:00 | データ分析・資料作成

シミュレーションから得られた出力データを分析し、仮説との整合性や再現性を検証します。得られた結果をもとにモデルの修正や解析手法の改善を行い、成果や課題を資料として整理することで、次の実験計画に反映させています。

ある1日の
過ごし方



① 10:00～12:00 | メール確認と情報収集

研究室に着いてすぐメールの確認とその日に行うことを整理します。その後、研究に関する情報収集を行ったり、必要な論文を読み進めたりして知識を深めます。

④ 21:00～22:00 | 成果整理と資料作成

その日のデータや進捗を整理し、今後の研究方針を検討します。また、進捗発表用に資料作成も行います。

① 9:00～11:00 | 研究計画・文献読解

毎朝、その日の目標を設定し、効率的に研究が進められるよう計画を立てています。また、自分の研究に関連する文献を読み、必要な情報を収集することで研究への理解を深めるとともに、アイデアを創出するきっかけにもなっています。

③ 13:00～15:00 | シミュレーション実験

午前中に得た知見や議論をもとに仮説を立て、神経回路モデルの構築とシミュレーションを行います。目的のシミュレーションを行うために、プログラムを実装し、条件に応じてパラメータの調整や設定を行いながら、モデルの挙動を観察しています。

② 13:00～15:00 | ミーティング

週に1回のミーティングでは進捗報告や学会参加報告等を行います。研究の現状と課題を再確認し、今後の方針を検討します。また、学会で得た知見の共有を通じて、研究室全体の視野が広がり、議論も活発になります。

③ 15:00～21:00 | モデル構築とデータ解析

収集した情報をもとに、数理モデルの構築や解析の進め方を検討し、計画を立てたうえで実際にモデルを動かしたり、データ解析を行ったりします。必要に応じてプログラムの修正やデータの再解析も行います。

学費・奨学金・支援制度

学費

〔博士課程前期課程〕

	1年次		2年次
	本国国出身者	他大学出身者	
入学金	—	200,000円	—
授業料（春学期）	633,800円	633,800円	633,800円
授業料（秋学期）	633,800円	633,800円	633,800円
計	1,267,600円	1,467,600円	1,267,600円

※上記以外に、院生協議会費4,000円、校友会費（他大学出身者のみ）30,000円が必要です。

〔博士課程後期課程〕

	1年次		2年次	3年次
	本国国出身者	他大学出身者		
入学金	—	200,000円	—	—
授業料（春学期）	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円
授業料（秋学期）	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円
計	500,000円	700,000円	500,000円	500,000円

※上記以外に、院生協議会費4,000円が必要です。

奨学金

学内ではさまざまな奨学金や支援制度を設けています。
2025年度現在の制度です。2026年度から変更となる場合もありますので、
出願に際しては、問い合わせ先、募集要項等で必ず確認をしてください。

〔奨学金についての詳細はこちら〕

https://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/financial/



1年次対象成績優秀者奨学金

M 前期課程対象

問 生命科学部事務室

本奨学金は、博士課程前期課程に入学する者で、入試成績が優秀な者に対して給付する奨学金です。
研究科が指定する入試方式の合格者で、入試成績が優秀な者を採用内定者に選出し、原則として合格発表時に合格者本人に通知します。
※国費外国人留学生ならびにこれに準ずる資金を得て入学を予定している者は対象外となります。



■種類・給付金額と給付人数の割合

成績優秀者に対して学期ごとに右記に記載の奨学金の半額を給付※します。

※1年次の各学期の授業料の納入時に、授業料と相殺する方法により給付します。

給付額（年間）	300,000円
給付人数の割合	入学者数の30％程度

2年次対象成績優秀者奨学金

M 前期課程対象

問 生命科学部事務室

本奨学金は、博士課程前期課程の2年次（第3・4学期）在学者を対象として給付する奨学金です。
※国費外国人留学生ならびにこれに準ずる奨学金等を得て在学する者、特別在学料を納入して在学する者は対象外となります。
※2年次対象成績優秀者奨学金については、2026年度より一部運用変更を行う予定です。案内や募集要項をよく確認してください。



■種類・給付金額・給付人数の割合

成績優秀者に対して学期ごとに下記に記載の奨学金の半額を給付※¹します。

給付額（年間）	I：300,000円 II：600,000円
給付人数	I：在学者数の30％ ^{※2} 程度 II：最大10名 ^{※3} 程度

■募集時期

春学期募集：5月／秋学期募集：10月 ※申請できるのは、第3学期在学時に限ります。

※1 給付方法の詳細については、募集要項を確認してください。

※2 春学期の募集は4月1日、秋学期の募集は9月26日時点での在学者数が基準となります。
給付基準は総合評価の得点上位者となります。

※3 給付基準は生命科学研究科博士課程後期課程進学希望者の総合評価の得点上位者となります。

研究奨励奨学金

D 後期課程対象

問 教学推進課

本奨学金は、本学大学院に在学する優秀な研究業績を有する者の授業料を補助することにより、
当該課程における研究活動を奨励することを目的とした奨学金です。S・A・Bの3種類に種別されています。



種別	S 給付	A 給付・B 給付
対象	日本学術振興会特別研究員の身分を有する者・ 申請年度採用の募集における2次選考候補者	各研究科の研究上の目的に照らして優れた研究業績をあげた者、 あるいはあげることが期待できる者 ※標準修業年限超過者は除く
給付金額・募集時期	〈支給額〉授業料相当額 〈通知〉5月頃、対象者にmanabaで通知	〈支給額〉A：授業料相当額 B：授業料の1/2相当額 〈募集時期〉6月上旬（予定）
採用実績（2025年度）	1名	A：2名（後期課程在学者総数の5％） B：6名（後期課程在学者総数の15％）

博士課程院生研究支援奨学金

D 後期課程対象

問 RARA オフィス

博士課程後期課程在学者を対象に、優れた研究計画に対して、実現に向けた経済的な負担を軽減し、
在学中の学位取得に資する研究活動を促進することを目的に助成をおこないます。
申請区分に応じて、1件あたり10万円・30万円・50万円のいずれかを審査の上、給付します。



Ritsumeikan Advanced Research Academy (RARA) 学生フェロー

D 後期課程対象

問 RARA オフィス

本学の中核研究者の指導を受ける博士課程後期課程学生のうち、特に優秀な学生をRARA学生フェローとして選抜・認定を行った上で、
育成支援を行うプログラム。研究活動支援金（生活費相当額）・研究費が最長3年間にわたって支給されます。



支援対象者数	125名（2025年5月1日現在）
支援内容	① RARA×SPRING：研究活動支援金（年額222万円）と研究費（最大34万円） ② RARA×BOOST：研究活動支援金（年額240万円）と研究費（最大150万円）

育志賞

D 後期課程対象

問 RARA オフィス

将来の活躍を期待される優秀な若手研究者を奨励するために、平成22年当時の天皇陛下により創設されました。
毎年、全国約7.5万人の博士課程後期課程大学院生を代表して、
人社系、理工系、生物系各分野から優秀な大学院生が推薦され、受賞者が確定します。
受賞者には、賞状、学業奨励金（110万円）の贈呈と日本学術振興会特別研究員に採用され研究奨励奨学金が支給されます。



教学リサーチアシスタント（RA）

D 後期課程対象

問 RARA オフィス

研究プロジェクト、共同研究、受託研究等に従事することにより、
研究力量の向上や研究成果の創出につなげ、国内外の教育、研究機関、企業（研究職）等で活躍できる若手研究者の育成を目指します。
また、経済的にも支援することにより、研究に専念できる環境づくりにつなげます。

日本学術振興会特別研究員を目指している方へ

特別研究員制度は、日本トップクラスの優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、
研究者の養成・確保を図る目的で独立行政法人日本学術振興会が実施する制度です。特別研究員に採択された方には、研究奨励金が支給されます。
採択者の多くは常勤の研究職に就いており、若手研究者の登竜門と言われています。将来、研究職を目指している方、後期課程進学を考えている方は、
ぜひ挑戦してみてください。

申請区分	
DC1 後期課程進学時 [※] に申請する区分	
採用期間	3年間
研究奨励金	月額20万円（支給予定額）
研究費	応募区分によって異なります
採択のポイント	修士課程・博士課程前期課程2回生5月時点 [※] までに描いた研究計画の独自性や実現性を評価されます。 さらに、「研究遂行能力がある」とアピール出来ると評価が上がります。
DC2 後期課程在学時 [※] に申請する区分	
採用期間	2年間
研究奨励金	月額20万円（支給予定額）
研究費	応募区分によって異なります
採択のポイント	申請時 [※] までに描いた研究計画の独自性や実現性を評価されます。 さらに、「研究遂行能力がある」とアピール出来ると評価が上がります。

※課程により、時期が異なる場合があります。詳細については、募集要項を必ず確認してください。

〔特別研究員制度についての詳細はこちら〕

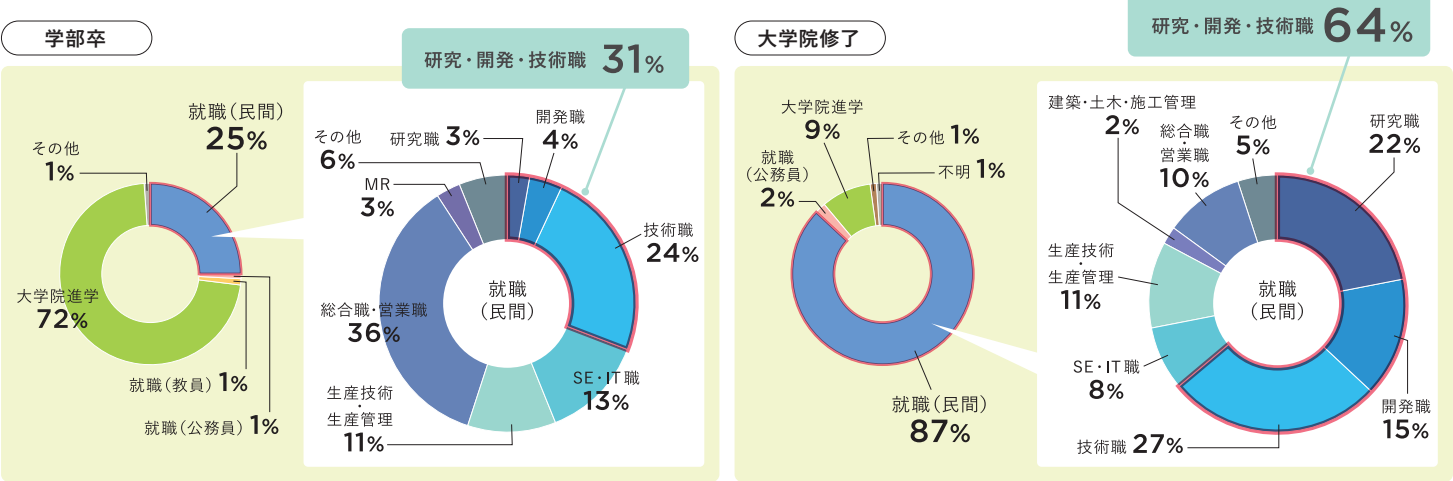
https://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/jsps/



進路・就職

博士課程前期課程

■ 学部卒と大学院修了の職種別就職状況



■ 2025年3月修了者の就職先例

[応用化学コース]	[生物工学コース]	[生命情報学コース]	[生命医科学コース]
花王(株)	(株) カネカ	(株) 明治	アサヒビール(株)
(株) カネカ	東レ(株)	東芝インフラシステムズ(株)	ニプロ(株)
キリンホールディングス(株)	ニプロファーマ(株)	(株) NTTデータ関西	ライオン(株)
日本ガイシ(株)	(株) ロッテ	日本電気(株) (NEC)	中外製薬工業(株)
パナソニックエナジー(株)	国家公務員総合職(農林水産省)	三井情報(株) (三井物産グループ)	日本メナード化粧品(株)

博士課程後期課程

■ 博士課程後期課程への進学

生命科学専攻では、研究科に相応しい高度な専門的実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また国際連携、地域連携、国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。(2025年度在籍者数(日本語基準生): 1回生15名、2回生5名、3回生以上11名)

	修了数	就職先		
		民間企業・団体	教育研究機関	その他
2020卒	13	4	4	5
2021卒	4	0	3	1
2022卒	4	2	2	0
2023卒	9	5	2	2
2024卒	7	4	3	0

■ 2025年3月修了者の就職先例

積水化学工業株式会社
株式会社島津製作所
セイコーエプソン株式会社
大学等の教育研究機関(藤田医科大学、立命館大学)

博士課程後期課程学生へのキャリア支援制度

本学では、博士キャリアパス形成を進めるために、各種講座・セミナーの開催や企業とのマッチングセミナーを開催しています。所属研究科で専門性を高めるとともに、社会で活躍するために必要な力やスキルを身につけることができます。

問 RARA オフィス

博士人材育成
コンソーシアム

※リンクは学内向けページ

連携型博士研究人材
総合育成システム
(HIRAKU)

キャリアパス
支援ガイド

